

2021年2月5日

全国大学国語教育学会

2020年度 学会通信 第2号

全国大学国語教育学会事務局

全国大学国語教育学会会員の皆様

人間世界の在り方が激変した年として永く歴史に刻まれるであろう2020年度も、残すところ2か月を切りました。新型コロナウイルス感染症対策の緊急事態宣言は、首都圏を初めとする10の都府県で1か月延長と決まり、全国大学国語教育学会会員各位におかれましてはトンネル出口が見えない状況下での年度末を迎え、慌ただしい毎日をお過ごしのことと拝察します。

さて、2020年度学会通信2号をお送りします。以下のご案内にあります通り、5月末に開催される第140回春季大会は、昨秋の第139回大会と同様、オンラインにて開催いたします。このような状況でなければ、ライラックの咲く北海道で会員同士の交流を楽しむことができたかと思えますと残念ですなりませんが、ご理解のほどよろしく願いいたします。代わりに前回と同様、多くのご参加を得て充実した会になりますよう、実行委員会が準備を進めております。

あわせて、『国語科教育』第九十集の投稿についてもお知らせします。今年度は投稿規定について何度か見直しがありましたので、投稿される方は最新の修正版をご確認いただく必要があります。よくお読みいただいて遺漏なきように、よろしく願いいたします。

それからもう一つ、ただ今、山元隆春会員を委員長として『国語科教育学研究の成果と展望Ⅲ（仮称）』の編集が進められております。主として2010年からの10年間に発表された国語科教育学研究をレビューし、その成果と課題を見通しながら、我々が進むべき道を展望するものです。どうぞご期待ください。

## 第140回春期大会(オンライン)開催について

### ◆第140回全国大学国語教育学会 2021年春期大会(オンライン)のご案内(第1次)

2021年春期大会(オンライン) 実行委員長 児玉 忠(宮城教育大学)

### ◆2021年春期大会(オンライン) 実行委員について

様々な状況を鑑み、2021年春期大会についてもオンラインでの開催となりました。今回のオンライン大会では、大会担当常任理事、総務担当常任理事、研究部門、幹事、北海道教育大学実行委員、日本体育大学実行委員、東京学芸大学実行委員でオンライン学会実行委員を組織いたしました。至らない点多々あるとは思いますが、皆様方のご協力で、なんとか運営したいと考えております。お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

### ◆第140回全国大学国語教育学会 2021年春期大会(オンライン)

■開催日：令和3(2021)年 5月29日(土)、5月30日(日)

■会場：オンライン(当日特設サイト：5月中旬開設予定)

■2021年春期大会(オンライン)用広報サイト <https://sites.google.com/view/jtsj/>

◆大会2日間の概要(予定)

| 第1日目 5月29日(土) |   | 第2日目 5月30日(日) |                        |
|---------------|---|---------------|------------------------|
| 9:00          | 開場  | 9:00          | 開場                     |
| 9:30          | 自由研究発表<br>Zoomミーティング                        | 9:30          | 課題研究発表<br>Zoomミーティング   |
| 11:45         | 紙面発表交流<br>Spatial Chat                      |               |                        |
| 11:50         | Zoom発表交流<br>Spatial Chat                    |               |                        |
| 12:50         | 理事会   | 12:30         |                        |
| 13:00         | 総会  | 12:40         | 紙面発表交流<br>Spatial Chat |
| 14:10         | シンポジウム<br>Zoomミーティング                        | 13:30         | 若手交流企画<br>Spatial Chat |
| 17:10         | 休憩  | 14:30         | 自由研究発表<br>Zoomミーティング   |
| 17:30         | 公開講座(無料)<br>Zoomミーティング<br>+<br>Youtube Live | 16:55         | Zoom発表交流 Spatial Chat  |
| 20:00         |   | 18:00         |                        |

※タイムテーブルや使用システムや企画内容は変更する可能性があります。

<第1日目 5月29日(土)>

○AM 自由研究発表

○PM シンポジウム

古典の学びを国語科教育学はどのように捉えるのか

コーディネーター 内藤一志(北海道教育大学) 菊野雅之(北海道教育大学)

藤森裕治(文教大学)

難波博孝(広島大学)

前田雅之(明星大学)

三上英司(山形大学)

○PM 公開講座

Tinkering with words: how do you stimulate the drafting, the sharing, the assessment of poetry?(言葉のティンカリング:詩創作の下書き、共有、評価をどう促すか?)

コーディネーター・ファシリテーター 中井悠加(島根県立大学)

ファシリテーター Sue Dymoke(スー・ディモク)(Nottingham Trent University)

通訳 Dustin Kidd(ダスティン・キッド)(島根県立大学)

## <第2日目 5月30日(日)>

### ○AM 課題研究発表

#### 国語教育学を見つめ直し展望する①

国語教育史研究(資料研究)の可能性・方向性を再考する

～「方法知」としての国語教育史研究とは～

コーディネーター 八木雄一郎(信州大学)

黒川麻実(大阪樟蔭女子大学)

甲斐伊織(学習院中等科)

勘米良祐太(名古屋女子大学)

### ○PM 若手交流企画(仮)

自由研究発表

ラウンドテーブル

学会参加申し込み、発表申し込み及び要旨投稿は、**2月下旬からWeb上で受け付ける予定**です。以下をよく読んでからお申し込みいただきますようお願い致します。

## ◆自由研究発表・ラウンドテーブルコーディネーターの募集

### (1)募集区分

#### ○自由研究発表

春期大会(オンライン)では、自由研究発表は「紙面発表」「Zoom発表」の二種類の方法によって実施します。発表を希望する方は、いずれの方法を希望するのかを、発表申し込み時に申請してください。

### 紙面発表

- ・4ページの発表要旨をもって、紙面上で研究発表する方法です。くわえて当日資料についても配付することができます。(DropBoxによるフォルダの共有を予定しています。)
- ・提出された発表要旨(希望する場合は当日資料)をオンライン上の特設サイトに掲載し、この資料に対して、質疑応答システムを用いて質疑応答を行います。質問があった場合は、必ず回答を行ってください。質疑応答の期間は大会当日から1週間程度を設定します。

### Zoom発表

- ・Web会議システムZoomを使用して、Web上で研究発表をする方法です。発表者はPC等でZoomを操作して、同時双方向で発表を行います。
- ・通常の対面学会と同じく、司会者が存在し、1会場4人程度の発表者を設定します。発表時間は20分、質疑応答は10分です。Zoomの準備時間は発表時間に含まれます(進行の都合上、発表時間の延長はできません)。
- ・発表資料は、オンライン上の特設サイトに掲載された4ページの発表要旨に加えて、スライドなどを画面共有で提示することができます。くわえて当日資料の配布もサポートします。(DropBoxによるフォルダの共有を予定しています。)
- ・発表者へのZoomの技術的支援はありませんので、事前に基本的な使い方について習熟しておいてください。
- ・Zoom発表は運営上の上限(60本程度)がありますので、先着順とします。申し込みが限界数を越えた場合、紙面発表となる場合があります。

### ○ラウンドテーブル:2日目午後、1時間30分~2時間(予定)

- ・オンラインで行えるシステムを使用して、ラウンドテーブルを行います。
- ・Zoom、Google meet等、どのようなシステムを使って頂いても構いませんが、システム使用で発生する費用は自己負担となります(多くのシステムが無料で使用できることを前提としています)。Zoom等のホスト用アカウント等はコーディネーターがご準備ください。
- ・ラウンドテーブル参加者は、大会に有料で参加している参加者に限定されます。
- ・ラウンドテーブル参加に関わる情報は、大会ポータルサイト内で案内を行います。
- ・発表資料は、オンライン上の特設サイトに掲載された4ページの発表要旨に加えて、スライドなどを画面共有で提示することができます。くわえて当日資料の配布もサポートします。(DropBoxによるフォルダの共有を予定しています。)

### (2) 申込期間(※2月下旬から受付開始予定)

**発表申し込み締切**                      **3月29日(月)**

**要旨投稿締切**                         **4月22日(木)**

### (3) 申し込み上のご注意

#### ※発表資格について

自由研究発表の発表申込者(筆頭発表者)及び共同発表者と、ラウンドテーブルの発表申込者(コーディネーター)は、以下のように会員資格を有し、年会費を納入していることが条件となります。お手続きがお済みでない方は、お早めにお問い合わせください。

※発表のための新規入会は、3月11日(木)までに入会申請を行い、3月30日(火)までに令和3年度の年会費のご納入を完了してください。

※現在会員の方は、大会開催前年度(令和2年度)までの年会費を、発表申込締切日までに必ずご納入ください。ご納入いただけない場合、発表が不採択となります。

※締切後の発表申し込みは、一切受け付けません。

※自由研究発表の発表日指定はできません。

※発表申し込み締切後は、題目・発表者等の変更はできません(申し込み期間内は、ご自身でシステムから修正可能です)。発表申し込みの登録情報と要旨原稿の記載情報は、必ず一致させてください。やむを得ず変更があった場合は、必ず大会ヘルプデスクへメールでご連絡ください。

※お申し込みは、Webでのみ受け付けます。どうしてもWebでの申し込みが難しい場合に限り、別のお申し込み方法をご案内しますので、大会ヘルプデスクまでお問い合わせください。

### (4) 発表申し込み時の入力項目について

#### ●自由研究発表 登録時の入力項目

※お申し込みは、筆頭発表者が行ってください。

- ・発表区分(自由研究発表を選択してください)
- ・題目・副題
- ・筆頭発表者の氏名(ふりがな)、所属、共同発表者の氏名(ふりがな)、所属(いない場合は不要)、発表形式(紙面発表・Zoom発表)

## ●ラウンドテーブル 登録時の入力項目

- ※お申し込みは、コーディネーターが行ってください。
- ・発表区分(ラウンドテーブルを選択してください)
- ・題目・副題
- ・登壇者の氏名(ふりがな)、所属、発表形式、印刷要旨集の希望

## (5)要旨原稿の投稿について

※発表要旨のテンプレートは、学会ホームページ(<http://www.gakkai.ac/JTSJ/>)の「テンプレート集」に掲載してあります。大会発表要旨集には、A4・白黒で掲載されます。

※自由研究発表 :A4 4ページ以内

※PDF形式で申込システムよりご投稿ください。PDF変換は、Word等の機能を用いてください。

※投稿画面にPDF変換の装置を設置していますが、PDFに変換後の原稿をよくご確認のうえ、ご投稿ください。一部ファイルの作成環境により文字化け等が発生することがあります。

※発表申し込みを完了すると、投稿ボタンが押せるようになります。

※要旨原稿はPDFデータをポータルサイトに掲載するとともに、本文冒頭200字程度をポータルサイトにサマリーとして掲載する予定です。

## ◆参加申込について

### 【申込諸費用】

#### 学会参加費

(会 員) 5,000円

(学生会員) 3,000円

(非 会 員) 6,000円

(学生非会員) 4,000円(検討中)

※発表申し込みと同様、受付は2月下旬からシステムにて行う予定です。

※お支払方法は、郵便振替とクレジットカード決済のいずれかをご選択ください。郵便振替の場合の申込諸費用のお振込先は、申し込み完了後にシステムから配信される完了通知メールに記載されています。また郵便振替の申し込みは4月30日(金)まででお願いいたします。

※発表申し込みと参加申し込みは別となります。発表者は必ず参加申し込みを行ってください。

※参加申し込みのための新規入会は、4月22日(木)までに入会申請を行い、5月14日(金)までに年会費のご納入まで完了してください。ご入会にはお時間がかかりますのでお早めのお手続きにご協力をお願い致します。

・オンライン大会のための発表要旨はPDFで大会特設ページに公開します。印刷された要旨集を希望される方は実費(4000円・送料込み)でお求めいただけます。申し込み時に選択してください。5月6日(木)までに費用を納入いただいた方に会期前に要旨集を送付致します。それ以降の入金や申込分は会期後に発送となります。

- ・要旨集は大会終了半年後以降にJ-stageにアップする予定です。

●申し込み方法について(公開講座以外の企画へ参加する場合、公開講座への参加は無料です。大会申込みシステムによる参加登録も不要です。参加方法については、2021年春期大会(オンライン)用ウェブサイト <https://sites.google.com/view/jtsj/> で情報発信を行います。)

1) 大会申込システムのログインページにアクセスしてください。

**【大会申込システム】** <https://iap-jp.org/jtsj/conf/member/login>

※受付開始は2月下旬の予定です。

受付開始前はアクセスしても受付期間外のメッセージが表示されます。

※学会ホームページにもURLが記載されています。

2) ログインIDの取得とログイン

① ログインIDを取得します。登録したメールアドレスに、ログインIDが記載された完了通知メールが配信されます。

② ログインIDと登録したメールアドレスを入力してシステムへログインしてください。

3) 申込者情報の登録

ログイン後、申込者情報を登録してください。会員としてお申込いただく際には、会員番号が必要となります。

※会員番号は、学会から会員の皆様宛に送られる封筒の宛名に記載されています。

4) 事前参加申込・発表申込・要旨投稿

申込者情報の登録後、事前参加申込、自由研究発表の発表申込、要旨投稿が可能となります。申込が完了すると、登録したメールアドレスに申込完了通知メールが配信されますのでご確認ください。

## ●お問い合わせ先

※参加・発表申込・原稿投稿・諸費用に関すること

全国大学国語教育学会大会ヘルプデスク

E-mail: [jtsj-desk@bunken.co.jp](mailto:jtsj-desk@bunken.co.jp) FAX: 03-5227-8632

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

※年会費に関すること

全国大学国語教育学会事務局

E-mail : [jtsj-post@bunken.co.jp](mailto:jtsj-post@bunken.co.jp) TEL : 03-6824-9377 FAX : 03-5227-8631

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

※2021年春期大会(オンライン)に関すること

E-mail: [tkodama@staff.miyakyo-u.ac.jp](mailto:tkodama@staff.miyakyo-u.ac.jp) TEL: 022-214-3376 (児玉研究室直通)

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149

宮城教育大学 児玉 忠 宛

\*お問い合わせはEメールでお願いいたします。

※第140回全国大学国語教育学会 2021年春期大会(オンライン) 実行委員

児玉 忠、植山俊宏、長田友紀、勝田光、勘米良祐太、古賀洋一、澤田英輔、住田勝、寺田守、富安慎吾、中井悠加、羽田潤、細川太輔、内藤一志、菅原利晃、幸坂健太郎、菊野雅之、府川源一郎、奥泉、千田洋幸、大澤千恵子、斎藤ひろみ、白勢彩子、中村和弘、中村純子、南浦涼介、渡辺貴裕

## ◆『国語科教育』第九十集 投稿募集について

第九十集編集委員会

1. 投稿論文の受付期間は2021年3月1日(月)～2021年3月31日(水) (消印有効) です。
2. 原稿の送付先は下記の通りです。  
〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5  
全国大学国語教育学会事務局  
電話：03-5389-9377
3. 封書にはかならず「**投稿原稿在中**」と朱書き書留で郵送してください。
4. 以下の『国語科教育』投稿要領に従ってください (修正箇所を朱書きしてあります)。

### 「国語科教育」投稿要領 (令和3年1月20日修正)

#### 投稿論文の内容および体裁について

1. 論文原稿は未発表のものに限る。ただし、口頭発表、プリント類の場合はこの限りではない。なお、他誌に掲載された自らを著者とする論文と著しく重複する内容の論文を、投稿してはならない。
2. 重複投稿の禁止  
本誌『国語科教育』に投稿された論文等はその採否が決定するまで国内・国外を問わず他誌に投稿することはできない。また、他誌に投稿中のものは受け取らない。
3. 募集枠は、「研究論文」「実践論文」「資料」の三つのカテゴリーとする。どの枠に応募したものであるかが分かるように、そのことを題名の前に明記する。ただし、採択の枠付けに関しては、編集委員会の最終的な判断によるものとする。

研究論文：独創的な知見を含む学術研究。

実践論文：国語科の先行実践をふまえて、新たな実践の方向性や意義・価値について学術的な根拠に基づいて論じたもの。

資 料：国語科教育学に関する基礎的データや国語教育の実践・研究に関する情報を提示したもの。

4. 連続掲載は、原則として2回までとする。
5. 論文原稿は、縦書きまたは横書きで、原則としてパソコンを使用する。
6. 編集委員会において特に枚数を指定するもの以外の論文原稿は、原則として400字詰原稿用紙ほぼ40枚(8ページ分)以内とし、1ページあたりの字数・行数を次のようにする。

#### (1) 横書きの場合

23字×44行×2段(1ページ2,024字、ただし最初の1ページは、題目・氏名のスペースとして7行2段をとる。)

#### (2) 縦書きの場合

33字×31行×2段(1ページ2,046字、ただし最初の1ページは、題目・氏名のスペースとして7行2段をとる。)

- \* 学会ホームページに記載している、**投稿原稿用のテンプレートを必ず使用すること**。
- \* 引用および注の文字ポイントは本文と同じとする。ただし、図表についてはこの限りではない。
- \* 図表は本文の中に含めて計算し、本文内に該当箇所を明示することとし、縮小率は8割以上とする。

7. 原稿は以下の体裁で整えること。

(1) 論文本体

- \* 表題の下に、投稿論文に関わるキーワードを記すこと。
- \* 論文には氏名・所属等、書き手を特定できる情報は書かないこと。

(2) 注（ただし、引用のための注はつけない）

(3) 参考文献

- \* 論文本体や注、参考文献に「拙稿」「拙著」など、投稿者名が判明するような記述を行わないこと。

(4) 研究助成を受けた場合の記載

- \* **科学研究費等の助成を受けた場合は、書き手が特定されないように、課題番号部分を以下のように記載すること。**

**(例：本研究は、JSPS科研費課題番号 \*\*\*\* \* の助成を受けた) \* の数は課題番号の文字数に合わせる。**

8. 引用文献の記載について

(1) 引用文献の記載方法は、原則としてAPAスタイルに準拠する。

(2) 本文中における引用の記載方法は、次の通りである。

① 著者が一人の場合は、著者の姓および発行年を本文中に挿入する。

……（高橋，2010）。……（Black，1988）。

高橋（2010）は、……。Black（1988）は、……。

② 著者が二人の場合は、両方の著者の姓および発行年を本文中に挿入する。

……（高橋・鈴木，2012）。……（Black & White，1992）。

高橋・鈴木（2012）は、……。Black & White（1988）は、……。

③ 同一刊行年の文献は、刊行順にa, b, c, を刊行年に付し区別する。

佐藤学（1999a）『教育時評 1997-1999』世織書房

佐藤学（1999b）『学びの快楽 ダイアログへ』世織書房

(3) 論文末に、日本語文献と非日本語文献とに分けて参考文献を記載する。日本語文献は著者の姓の五十音順に、非日本語文献は著者の姓のアルファベット順に参考文献を掲載する。翻訳文献は、非日本語文献として記載する。記載方法の例は、次の通りである。

① 学術誌の論文

石井庄司（1953）「国語教育学の完成を期して」『国語科教育』第2号，1-4.

Posner, G. J., Strike, K. A., Hewson, P. W., & Gertzog, W. A. (1982). Accommodation of a scientific conception: Towards a theory of conceptual change. *Science Education*, 66(2), 211-227.

② 書籍

全国大学国語教育学会編著（2013）『国語科教育学研究の成果と展望 2』学芸図書

大槻和夫（1997）「国語科教師における国語教育学の目的と体系」全国大学国語教育学会編『国語教育学の建設1 国語科教師教育の課題』明治図書，1-104.

Fraser, B. J., Tobin, K. G., & McRobbie, C. J. (Eds.). (2012). *Second international handbook of science education*. Dordrecht, Netherlands: Springer.

Wertsch, J. V. (1991). *Voices of the Mind: A sociocultural Approach to Mediated Action*, Cambridge, Mass: Harvard University Press. 田島信元他訳（1995）『心の声—媒介された行為への社会文化的アプローチ』福村出版.

③ オンラインからの引用

文部科学省（2011）「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/gengo/1301088.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1301088.htm) (○年○月○日確認)

Degelman, D., & Harris, M. L. (2000). *APA style essentials*. Retrieved May 18, 2005, from Vanguard University, Department of Psychology Web site:  
[http://www.vanguard.edu/faculty/ddegelman/index.cfm?doc\\_id=796](http://www.vanguard.edu/faculty/ddegelman/index.cfm?doc_id=796)

- (4) 本文中の文献ページ数の記載は、以下のいずれかの方法に従う。
- ① 発行年の後に「:」(コロン)を入れて「著者名(発行年:ページ)」とする  
例:石井庄司(1957:2)は「○○○」と述べている。
  - ② 引用の最後にページ数を明示する。  
例:石井庄司(1957)は「○○○」(p.2)と述べている。
  - ③ 注の形式(脚注,または,巻末注)で,参照する文献のページ数を明示する。  
例:石井庄司(1957)は「○○○」<sup>1</sup>と述べている。 注1. 石井庄司(1957) p.2

### 原稿を投稿するにあたって

9. 投稿に際しては以下のものを同封する。
- (1) 電子媒体(OS名と作成ソフト名を記載すること。USBメモリまたはSDカードによる提出が望ましい。)
  - (2) 打ち出し原稿4部(複写でよい)
  - (3) 投稿者情報(A4用紙1枚に,氏名,所属,原稿発送年月日,連絡先(電話番号,Eメールアドレス,住所),論文の表題,希望する募集枠のカテゴリーを記載したもの)  
なお,提出物は原則として返却しない。
10. 更新された学会ホームページ上のテンプレートを使うこと。投稿にあたっては,特に,規定通りの字数(横書きの場合,23字×44行×2段,縦書きの場合,33字×31行×2段)となっているか,確認の上,作成,投稿をされたい。
11. 郵送に際しては書留で送付すること。また封書には氏名,所属,連絡先を記載し,表には「投稿原稿在中」と朱書すること。
12. 投稿論文は,上期においては8月1日から8月31日までの期間,下期においては3月1日から3月31日までの期間に受け付けるものとする。
13. 著作権について  
本誌『国語科教育』に掲載された著作物(電子媒体への変換による利用も含む)の複製権,公衆送信権,翻訳・翻案権,二次的著作物利用権,譲渡権等は本学会に譲渡されたものとする。著作者自身のこれらの権利を拘束するものではないが,再利用する場合は事前に本学会宛に連絡をする。
14. 投稿資格について  
投稿にあたっては**著者全員が会員資格を有し,当該年度までの年会費を納入していること。**

**2020年度7月以降の新入会委員（受付順、敬称略）**

小野塚 若菜、登城 千加、松下 達彦、劉 卿美、田川 朗子、丸岡 千晃、多賀 由真、鷹野 昌秋、泰山 裕、西田 喜一、木下 遥菜、櫻井 正昭、王 培、服部 珠央、小田垣 有輝、田中 佳太、三沼 紀子、前田 晶紀、小川 路世、松井 萌々子、後藤 理恵子、友永 達也、有嶋 誠、小川 一美

※万一氏名に誤記がありましたら事務局までお知らせください。